

4 教育研究の組織

進捗状況報告

2008年度に社会福祉学科が分離し人間福祉学部として独立した。これにともない同学科の新入生募集を停止し、2007年度以前入学生が社会福祉学科のカリキュラムにそった教育を継続して保障している。これとともに、社会学科では、2009年度に入学生定員を増やす予定であり、同時にそれに見合う新採用教員を増員して、従来の5コース制を廃止し、より時代の要求（グローバル化と高度情報化）に適合した3系7領域の新しいカリキュラムを構築する。新しいカリキュラムでは、これまでの総合教育科目と専門教育科目の連関をさらに一歩進めることによって、この分類を廃止し、学部の中核となる講義科目（B群（選択必修）科目）を、メディア・表象系、社会・共生系、人間・心理系の3系に分類して、さらにメディア・表象系はメディア領域、社会・表象領域に、社会・共生系はグローバル社会領域、現代社会学領域、ソーシャルネットワーク領域に、人間・心理系は臨床社会領域、社会心理領域に細分化する。これによって、社会学を核としつつ、隣接領域やこれまでの教養教育科目の一部も含んだ幅広い領域がカバーされ、2005年度の「改善の具体的方策」にある「学問領域相互の有機的な連携」を実現する。それと同時に、A群（必修）科目として、1年次にアカデミック・プレパレーション科目（基礎演習、社会学リレー講義）、2年次にインターメディアイト・スタディ科目（インターメディアイト演習）、3・4年次にアドバンスト・リサーチ科目（研究演習）を設け、段階的に学習レベルが上がっていくように配慮するとともに、基礎演習以外は原則として専任教員が担当し、4年間を通した少人数教育を確保する。これによって、大きく幅の広がった学習領域のなかで、学生が一貫した学習ができるように配慮している。このような新しいカリキュラムの実施に向け、学部構成員をあげて、取り組んでいる。また、社会調査に関連する科目を、3系7領域とは別にB群（選択必修）科目に配置することによって、積極的な履修を促し、「社会調査士」の資格を取得する学生が増えるよう配慮している。

学内第三者評価

2008年度に社会福祉学科の分離独立に対応して、2009年度に、グローバル化と高度情報化に適合するねらいで3系7領域のカリキュラムの構築に取り組んでいると認められる。3系7領域と、社会調査に関連する科目の配置ということで、教育研究組織の構成が明確である。今後、このような構成の趣旨と成果を検証する仕組みの検討が期待される。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
2008年度に社会福祉学科の分離により、社会学科では5コース制から3系7領域のカリキュラムが構築され、これにより学問領域相互の有機的な連携を図るなど、意欲的な取組が行われている。社会調査関連科目をB群に3系7領域とは別に設定し「社会調査士」の資格取得者を増やすように配慮されており、今後、その結果が期待される。